

Summary

In fiscal year 2021, the research center for buried cultural properties at Kumamoto University attended 27 development construction and obtained the following archaeological achievements: In a survey due to restoration work on historic buildings at Kurokami area damaged by the April 2016 Kumamoto earthquake, traces of ground leveling work related to the building's construction and part of brick boiler facilities were identified. In the Uruge area, a distribution map of the tunnel tomb at Kofun period was created for protecting these from the installation of sediment run-off prevention nets. Excavations investigation also unearthed relics from the Medieval Age, revealing how long this site would last. Structural remnants and inclusion layers of ancient era have also been found in surveys of the Honjō and Ōe districts. Archaeological surveys related to the Kumamoto earthquake was completed in five years. The restoration work of all the historic buildings was also completed, and a ceremony was held to mark the completion on March 23, 2022. We will actively communicate the archaeological achievements of these historic buildings that we have accumulated through our research.

2021 년도 , 구마모토대학 매장문화재조사센터에서는 27 건의 개발공사에 입회하여 다음과 같은 고고학적 성과를 얻었다 .

구로카미 북·남지구에서는 , 2016 (헤이세이 28) 년 4 월에 일어난 구마모토지진으로 큰 피해를 입은 국가지정 중요문화재 (건조물) 의 복구 공사와 관련된 조사에서 건물 건설에 관련한 토목공사 흔적과 관련 설비가 일부 확인되었다 . 우루개지구 (宇留毛地区) 에서는 , 토사 유출방지 네트 설치공사로 부터 고분시대의 횡혈묘를 보호하기 위해 유구 분포도를 작성했다 . 또한 시굴조사에서 중세 유물들이 출토되어 유적 존속시대가 분명해 졌다 . 혼쵸지구와 오오에지구 조사에서도 고대의 유구와 포함층이 발견되었다 .

구마모토지진과 관련된 매장문화재조사는 5 년의 세월에 걸쳐 모두 완료되었다 . 역사적 건조물의 복구 공사도 완공되어 2022 년 3 월 23 일에 준공을 기념하는 세레모니가 개최되었다 . 지금까지 축적해 온 근대 건조물의 고고학적 조사 성과를 적극적으로 공개해 나가기 위해 본 센터는 앞으로도 계속 노력해 나가고자한다 .

付篇 1 熊本大学埋蔵文化財調査センター規則 (R2.2.28～)

(趣旨)

第1条 この規則は、熊本大学学則（平成16年4月1日制定）第9条第2項の規定に基づき、熊本大学埋蔵文化財調査センター（以下「センター」という。）に関し必要な事項を定める。

(設置目的)

第2条 センターは、熊本大学（以下「本学」という。）に所在する遺跡を発掘調査するとともに、出土した埋蔵文化財を記録、研究、保存及び活用し、もって本学の教育研究に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 埋蔵文化財調査の実施計画の立案及び実施に関すること。
- (2) 出土した埋蔵文化財の整理・研究、保管及び保存に関すること。
- (3) 文化庁等に提出する報告書の作成に関すること。
- (4) 埋蔵文化財に係る考古学的知見等に基づく教育に関すること。
- (5) その他センターの目的を達成するために必要な事項

(職員)

第4条 センターに、次に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 専任教員
- (3) その他必要な職員

(センター長)

第5条 センター長の選考は、本学の専任の教授のうちから、第7条に規定する委員会の推薦を受けて、学長が行う。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

4 センター長に欠員が生じた場合の補欠のセンター長の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第6条 専任教員の選考は、熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会の意見を聴いて、学長が行う。

2 専任教員の選考に関し必要な事項は、別に定める。

(委員会の設置)

第7条 センターの管理運営に関する事項を審議するため、熊本大学埋蔵文化財調査センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(委員会の組織)

第8条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
 - (2) センターの専任教員
 - (3) 大学院教育学研究科から選出された教授又は准教授 1人
 - (4) 大学院人文社会科学部から選出された教授又は准教授 2人
 - (5) 大学院先端科学研究部から選出された教授又は准教授 2人
 - (6) 大学院生命科学研究部の医学系又は病院から選出された教授又は准教授 1人
 - (7) 大学院生命科学研究部の保健学系及び薬学系から選出された教授又は准教授 各1人
 - (8) 発生医学研究所、生命資源研究・支援センター又はヒトレトロウイルス学共同研究センターから選出された教授又は准教授 1人
 - (9) 施設部施設管理課長
 - (10) その他センター長が必要と認めた者 若干人
- 2 前項第3号から第8号まで及び第10号の委員は、学長が委嘱する。
- 3 第1項第3号から第8号までの委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 4 第1項第3号から第8号までの委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。
- 5 第1項第10号の委員の任期は、学長が委嘱の都度定めるものとし、再任を妨げない。

(委員会の審議事項)

第9条 委員会は、センターに関する次に掲げる事項（熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会規則（平成16年4月1日制定）第3条に定める事項を除く。）を審議する。

- (1) センターの業務に関すること。
- (2) センター長候補者の推薦に関すること。
- (3) 施設及び予算に関すること。
- (4) その他センターの管理運営に関すること。

(委員長)

第10条 委員会に、委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第11条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決をすることができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第12条 委員長は、必要があるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第13条 センター及び委員会の事務は、施設部施設企画課において処理する。

(雑則)

第14条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

1 この規則は、平成23年10月1日から施行する。

2 国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査委員会規則（平成16年4月1日制定）及び熊本大学埋蔵文化財調査室要項（平成16年4月1日制定）は、廃止する。

3 この規則施行後、最初に任命されるセンター長は、第5条第1項の規定にかかわらず、この規則により選考されたものとみなす。

4 この規則施行後、最初に任命されるセンター長の任期は、第5条第3項の規定にかかわらず、平成25年3月31日までとする。

5 この規則施行後、最初に委嘱される第8条第1項第3号及び第4号の委員の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成25年3月31日までとする。

附 則（平成24年12月27日規則第142号）

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成27年3月13日規則第94号）

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成28年2月5日規則第9号）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成28年3月1日規則第30号）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成28年9月23日規則第404号）

この規則は、平成28年9月23日から施行する。

附 則（平成29年3月31日規則第153号）

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成30年3月22日規則第177号）

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成31年3月28日規則第264号）

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則（令和2年2月28日規則第14号）

この規則は、令和2年2月28日から施行する。

付篇2 2021年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

1 埋蔵文化財調査センター組織

＜センター長＞（併・大学院人文社会科学部教授）	新井 英永（2021.4.1～）
＜専任教員＞	大坪 志子
	新里 亮人
	山野 ケン陽次郎
＜技術補佐員＞（2021年4月～2022年3月）	士野 雄貴
＜事務補佐員＞（2021年4月～2022年3月）	植田 裕子
＜室内作業員＞（2021年4月～2021年9月）	小山 正子
（2021年4月～2022年3月）	江口 路
	鬼塚 美枝
	首藤 優子
	末吉 美紀
	園田 智子
	濱崎 清子
	増井 弘子
	井上 裕美

（2021年10月～2022年3月）

2 埋蔵文化財調査センター運営委員会

委員長	新井 英永	（埋蔵文化財調査センター長）	
委員	中尾健一郎	（大学院人文社会科学部教授）	任期（2021.4.1～2023.3.31）
	小畑 弘己	（大学院人文社会科学部教授）	（2021.4.1～2023.3.31）
	渡部 薫	（大学院人文社会科学部教授）	（2021.4.1～2023.3.31）
	望月 伸竜	（大学院先端科学研究部准教授）	（2021.4.1～2023.3.31）
	村上 聖	（大学院先端科学研究部教授）	（2021.4.1～2023.3.31）
	福田 孝一	（大学院生命科学研究部医学系教授）	（2021.4.1～2023.3.31）
	米田 哲也	（大学院生命科学研究部保健学系准教授）	（2021.4.1～2023.3.31）
	杉村 康司	（大学院生命科学研究部薬学系准教授）	（2021.4.1～2023.3.31）
	日野信次朗	（発生医学研究所准教授）	（2021.4.1～2023.3.31）
	田鍋 和仁	（施設部施設管理課長）	（2021.4.1～2021.4.30）
	嶋津 高雅	（施設部施設管理課長）	（2021.5.1～）
	大坪 志子	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	
	新里 亮人	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	
	山野ケン陽次郎	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	

3 令和3年度埋蔵文化財調査センター運営委員会 審議事項

第1回（2021年5月24日）

報告

- 1) 令和2年度埋蔵文化財発掘調査結果一覧について
- 2) 令和2年度埋蔵文化財調査センター予算の支出実績について
- 3) 事務補佐員の雇用期限撤廃について
- 4) その他

議題

- 1) 令和3年度埋蔵文化財包蔵地における土木工事予定一覧について
- 2) 文学部考古学分野による構内遺跡の学術調査について
- 3) 令和3年度埋蔵文化財調査センター予算配分（案）について
- 4) 構内遺跡調査における出土資料の収蔵スペース確保について
- 5) その他

付篇3 熊本大学埋蔵文化財調査センター2021年度調査・研究活動記録

大坪志子

<論文等>

- ・「国府遺跡出土球状耳飾の研究」『古代学研究』第229号, 古代学研究会, pp.1-13.
- ・『三万田東原遺跡の研究 ―縄文時代後期後葉の石製装身具製作遺跡―』平成29～令和3年度科学研究費補助金 基盤研究(B) 研究成果報告書 研究代表者:大坪志子 熊本大学埋蔵文化財調査センター 131pp.
- ・『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』27, 熊本大学埋蔵文化財調査センター (共著:大坪志子・新里亮人・山野ケン陽次郎・土野雄貴)

<科学研究費>

- ・『九州縄文時代後晩期における玉と縄文文化の実証的研究』平成29～令和2年度科学研究費補助金 基盤研究(B) (研究代表者).

<その他>

- ・「石材からわかる九州縄文時代・弥生時代の玉文化」令和3年度福岡市埋蔵文化財センター考古学講座第6回講師 (2021年11月13日 福岡市埋蔵文化財センター).
- ・長崎県佐々町狸山遺跡出土大珠の評価
- ・長崎県原の辻遺跡調査指導委員会 (2020年12月2日 長崎県埋蔵文化財センター).
- ・八代市文化財保護委員会 (第1回:書面会議, 第2回:2022年3月7日 八代市役所)

新里亮人

<論文等>

- ・新里亮人 2021 書評 高宮広土著『奇跡の島々の先史学―琉球列島先史・原史時代の島嶼文明』沖縄タイムス (2021年(令和3年)5月29日 朝刊)
- ・J. H. Sterba, M. Shinoto, A. Shinzato, M. Enomoto, Y. Yomine. 2021. Provenancing of pottery from Kamuiyaki Site in East Asia by neutron activation analysis, *Archaeometry* 63(3)500-515
- ・SHINZATO Akito. 2021. New technology for elucidating archaeological sites (land edition), *OCCATIONAL PAPERS* 62 7-8
- ・SHINZATO Akito. 2021. New technology for elucidating archaeological sites (seabed edition), *OCCATIONAL PAPERS* 62 9-10
- ・SHINZATO Akito. 2021. Archaeology on the Eve of the Establishment of the Ryukyu State, *JAPANESE JOURNAL of ARCHAEOLOGY* Volume 9(Number 1) 35-83
- ・Aleksandra Jarosz, Martine Robbeets, Ricardo Fernandes, Hiroto Takamiya, Akito Shinzato, Naoko Nakamura, Maria Shinoto, Mark Hudson. 2022. Demography, trade and state power: a tripartite model of medieval farming/language dispersals in the Ryukyu Islands, *Evolutionary Human Sciences* 4
- ・新里亮人(編) 2022『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報 27』熊本大学埋蔵文化財調査センター
- ・赤司善彦・池田榮史・近江俊秀・木村淳・坂井秀弥・佐々木蘭貞・新里亮人・鈴木一有・芝康次郎・禰宜田佳男・藤井幸司・柳田明進・吉田東明・脇谷草一 2022 文化庁文化財第二課(編)2022『水中遺跡ハンドブック』文化庁文化財第二課

<科学研究費>

- ・『琉球列島農耕伝播経路解明に向けた考古学的研究』令和2～6年度科学研究費補助金 基盤研究(C) (研究代表者).

<その他>

- ・第7回水中遺跡調査検討委員会(第2期)及び第13回水中遺跡調査検討委員会協力者会議合同会議(2021年6月16日, オンライン開催)
- ・令和3年度第1回和泊町のあゆみ編さん委員会(2021年7月21日, 於:和泊町役場1階結いホール, オンライン参加)

- ・第14回水中遺跡調査検討委員会協力者会議（2021年8月4・5日，於：九州国立博物館，オンライン参加）
- ・「文化の窓口－奄美－」『第60回記念 黎明館企画特別展 ほこらしゃ奄美 記念講演会』講師（2021年10月16日）
- ・令和3年度第2回和泊町の歩み編さん委員会（2021年10月22日，於：和泊町役場2階会議室，オンライン参加）
- ・第8回水中遺跡調査検討委員会（第2期）及び第15回水中遺跡調査検討委員会協力者会議（2021年12月15日，於：文部科学省東館3F1会議室）
- ・令和3年度第3回和泊町の歩み編さん委員会（2022年1月21日，於：和泊町役場1階 結いホール，オンライン参加）
- ・第9回水中遺跡調査検討委員会（第2期）及び第16回水中遺跡調査検討委員会協力者会議（2022年3月9日，於：文部科学省東館3F1会議室）
- ・「石鍋からみた九州と琉球列島」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター公開講座 考古学と関連科学 第15回 高級調理具「石鍋」からみた古代・中世』講師（2022年1月22日）
- ・「奄美のグスクを考える」『第13回 葬墓制からみた琉球史研究会』口頭発表（2022年2月26日）
- ・第1回伊仙町誌「先史・原史時代部会」（2022年3月8日，於：伊仙町誌編纂室，オンライン参加）
- ・「考古学から琉球列島史を探る」NHK文化センター柏教室 NHKカルチャー柏 講師（2021年7月20日，8月17日，9月21日，10月19日，11月16日，12月21日，オンライン開催）

山野ケン陽次郎

<論文等>

- ・小野林太郎・山野ケン陽次郎・片岡修・Jason Barnabas・長岡拓也・片桐千亜紀・山極海嗣 2021「東ミクロネシアにおける人類の移住年代と貝利用－ポーンペイ島での最近の発掘成果より」『東南アジア考古学』（41）pp.57-72 2022年2月。
- ・Martine Robbeets, Remco Bouckaert, Matthew Conte, Alexander Savelyev, Tao Li, Deog-Im An, Ken-ichi Shinoda, Yinqiu Cui, Takamune Kawashima, Geonyoung Kim, Junzo Uchiyama, Joanna Dolinska, Sofia Oskolskaya, Ken-Yojiro Yamano, Noriko Seguchi, Hirotaka Tomita, Hiroto Takamiya, Hideaki Kanzawa-Kiriyama, Hiroki Oota, Hajime Ishida, Ryosuke Kimura, Takehiro Sato, Jae-Hyun Kim, Bingcong Deng, Rasmus Bjorn, Seongha Rhee, Kyou-Dong Ahn, Ilya Gruntov, Olga Mazo, John R. Bentley, Ricardo Fernandes, Patrick Roberts, Ilona R. Bausch, Linda Gilaizeau, Minoru Yoneda, Mitsugu Kugai, Raffaella A. Bianco, Fan Zhang, Marie Himmel, Mark J. Hudson, Chao Ning. 2021. Triangulation supports agricultural spread of the Transeurasian languages, *NATURE* 599(7886) 616, 2021年11月
- ・山野ケン陽次郎 2021 「43 熊本県」『日本考古学年報』73 pp.207-211 2021年11月
- ・山野ケン陽次郎 2021 「しまめぐり」『季刊誌 Yaponesian』第3巻ふゆ号 pp.54-57 2022年3月
- ・『先史マリアナ諸島における貝製品の研究』熊本大学埋蔵文化財調査センター 2017～2021年度日本学術振興会科学研究費（若手研究（B））課題番号17K13565「先史時代におけるマリアナ諸島の貝類利用の考古学的研究」研究成果報告書（編集：山野ケン陽次郎）2022年3月

<科学研究費>

- ・「先史時代におけるマリアナ諸島の貝類利用の考古学的研究」独立行政法人日本学術振興会：平成29年度科学研究費助成事業 若手研究（B）研究期間：2017年4月－2022年3月（研究代表者）
- ・「オセアニアの人類移住と島嶼間ネットワークに関わる考古学的研究」独立行政法人日本学術振興会：平成30年度科学研究費助成事業 国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））研究期間：2018年4月－2022年3月（研究分担者：山野ケン陽次郎，研究代表者：小野林太郎）

<その他>

- ・山野ケン陽次郎 『熊本大学構内遺跡黒髪南地区1310調査地点の調査成果』熊本大学文学部考古学実習 於：熊本大学文学部A3教室 2021年8月4日

報告書抄録

ふりがな	くまもとだいがくまいぞうぶんかざいちょうさせんたーねんぼう 28							
書名	熊本大学埋蔵文化財調査センター年報 28							
副書名								
巻次								
シリーズ名	熊本大学埋蔵文化財調査センター年報							
シリーズ号	28							
編著者名	新井英永・大坪志子・土野雄貴・新里亮人・山野ケン陽次郎							
編集機関	熊本大学埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1 TEL:096-342-3832 FAX:096-342-3832							
発行年月日	2023年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
くろかみまち 黒髪町遺跡群 (1823地点)	くまもと県 熊本市 黒髪	431010	597	32° 48' 47"	130° 43' 46"	20211021	888.16㎡	学校敷地内の復興事業に伴う
うるげおぜきばし 宇留毛小積橋 際横穴群 (1904地点)	くまもと県 熊本市 宇留毛	431010	606	32° 49' 06"	130° 44' 34"	20210419 ～ 20210629	55.57㎡	災害復旧工事に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 (1904地点)	くまもと県 熊本市 本庄	431010	660	32° 47' 44"	130° 42' 42"	20190708 ～ 20210428	6231.1㎡	病院敷地内の開発事業に伴う
大江遺跡 (2114地点)	くまもと県 熊本市 大江	431010	648	32° 47' 39"	130° 43' 17"	20220120～ 20220125	368.2㎡	学校敷地の開発事業に伴う
※北緯・東経の数値は世界測地系に基づく値です								
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
くろかみまちいせきぐん 黒髪町遺跡群 (1823地点)	集落址 近代構造物	古代・近世・近代	旧ボイラー	煉瓦			工学部研究資料館	
うるげおぜきばし 宇留毛小積橋 際横穴群 (2102地点)	埋葬址	古墳・中世・近代	横穴墓・溝・ピット・ 防空壕	土師器・須恵器・瓦質土器・ 青磁・鉄器				
ほんじょういせき 本庄遺跡 (1904地点)	集落址	古代・近世	溝・土杭・ピット	須恵器・土師器				
おおえいせきぐん 大江遺跡群 (2114地点)	集落址	古代・近世	溝・硬化面	土師器・須恵器・陶磁器				
要約	<p>2021（令和3）年度調査の内訳は、発掘調査0件、工事立会27件（黒髪北・南地区、宇留毛地区、本庄北・中・南地区、大江地区、京町地区、益城地区）であった。主な調査成果は以下の通りである。</p> <p>黒髪北・南地区における1823・2015調査地点は、2016（平成28）年4月の熊本地震により大きな被害を受けた国指定重要文化財（建造物）の復旧工事の工区内に当たり、1823調査地点では、熊本工業高等学校機械実験工場の北側に設置されていたボイラー煙道の一部、2015調査地点では、旧第五高等学校本館の竣工当時の整地面と推定される敷石遺構が確認された。熊本地震からの復旧に伴う埋蔵文化財の調査は今年度ですべて完了し、2022年3月23日、五高記念館、化学実験場、工学部研究資料館は無事に竣工の日を迎えた。</p> <p>宇留毛地区における2012調査地点は令和2年7月豪雨による法面崩落の災害復旧工事を原因とするもので、工事の事前に横穴墓の分布図を作成した。また、試掘調査では中世の遺物が出土し、遺跡の年代が古墳時代以降にもおよぶことが明らかとなった。</p> <p>本庄北地区の1904調査地点では、ピット等が検出され、病院敷地南縁の緑地帯下に遺構面が残存している状況が確認された。</p> <p>大江地区と京町地区では薬学部および附属中学校グラウンドの防球ネット取設工事が実施され、両者ともに遺物包含層の堆積が確認された。</p>							

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報28

—2021年度—

令和5年3月29日 印刷

令和5年3月31日 発行

編集兼発行者 熊本大学埋蔵文化財調査センター

熊本市中央区黒髪2-39-1

電話 096-342-3832

印刷所

シモダ印刷株式会社

Published by
Research Center for Buried Cultural Properties,
Kumamoto University
Kumamoto, 2023